

編 集 後 記

京都女子大学栄養クリニック活動報告書第15号を「開設15周年記念誌」として発行出来ますこと、関係の皆様に厚く御礼申し上げます。

本号では、まず、開設当初にご尽力いただいた先生方からご寄稿いただきました。当時を懐かしく思い出された方も多かったことと拝察いたします。改めて、栄養クリニックの設立や開設当初にご指導、ご尽力いただいたすべての皆様に心より御礼申し上げます。

10周年からの5年間のうち3年間は新型コロナウイルス感染症の感染状況を窺いながら、手探り状態での活動でしたが、その折々に可能な最大限の取組ができるよう努力してきたように思います。

開設当初には想像もつかなかった、オンライン（リアルタイム）での公開講座（令和3年度）や生涯学習講座（令和2年度、4年度）の開催、都合のよい時に視聴できるオンデマンドでの栄養講座開催（令和4年度）など、また、広報活動としてインスタグラムの開設（令和4年度）なども試みました。

大学地域連携事業や大学祭の栄養アセスメント体験・栄養相談、学園内の食育（附属小学校、大学学生）等の各事業も人数制限、時間短縮など、参加者の方、スタッフの安全を第一にコロナ対策を講じながらも、実施することができました。今年度から一般市民向けの料理教室も定員を半分にして開催でき、少しずつ従前の活動を再開できるようになってきました。特定保健指導においても、感染症予防対策を万全にして対面で行い、大学機関ならではのオーダーメイドの指導により満足度の高い成果を出しております。

また、附置研究所としての研究の取組についても、振り返りました。この数年、コロナ禍の為、研究活動は困難でしたが、これまでの研究成果を論文（査読付き）として発表することができました。

日本栄養改善学会が対面（オンラインとのハイブリッド）開催されることに伴い、自由集会で栄養クリニック連絡会議が3年ぶりに開催されました。全国の栄養クリニックを設置している大学関係者と、コロナ禍での事業運営について情報共有・意見交換ができました。

当クリニックの事業の特徴は、教育の一環として学生がボランティアに参加し、幅広い活動をしている点でもあります。開設当初からボランティア学生への指導助言をしてきましたが、令和2年度に学長採択事業「らしづよチャレンジ」で結成した「KWU食育ボランティア推進プロジェクト」は、栄養クリニックを拠点として持続可能なボランティア活動を推進しています。

R研究棟に移転してからも10年が経過し、従前の活動も徐々に可能になってきております。人生100年時代、健康寿命の延伸を目指し、栄養クリニックの使命として、with/afterコロナ時代の地域に根ざした大学の附置研究所として、社会貢献活動、教育活動、研究活動など、活動内容の継続・拡大、充実を図って参りたいと思います。

今後とも引き続き、ご支援ご指導を賜りますようお願いいたします。

副栄養クリニック長 中山 玲子

編集委員会	令和5年3月1日発行
編集委員長 宮脇 尚志	発行 京都女子大学栄養クリニック
編集委員	編集責任者 宮脇 尚志
中山 玲子	住所 〒605-8501
中村 智子	京都市東山区今熊野北日吉町35
泉 玲子	TEL 075-531-2136
松並 晃子	FAX 075-531-2153
	URL https://www.kyoto-wu.ac.jp/shakai/eiyouclinic/index.html